

4 徳島県立文学書道館【14,113千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業などに生かし、広く県内外の人々から利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業【975千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	第18回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。令和2年度は、小説20人、脚本5人、文芸評論6人、児童文学11人、随筆61人、現代詩337人、短歌320人、俳句412人、川柳147人、連句21人の計1,340人から2,013点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。</p> <p>表彰式:令和3年2月11日(木・祝) 応募者数: 1,340人 応募作品数: 2,013点 会場:ギャラリー</p>	975,359
	小計		975,359

(2) 年鑑編集・刊行事業【246千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	研究紀要「水脈」17号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格:無料</p>	246,400
	小計		246,400

(3) 教育普及育成事業【2,612千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家、研究者、文化人に専門分野のお話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について考える講座。新型コロナウイルス感染拡大防止のため4、5月は中止とした。服飾ブランド matohuデザイナーの堀畑裕之氏、彫刻家の松永勉氏を迎えた講座は、いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、いずれも充実したものとなった。</p> <p>日時:令和2年6月～7月(全2回) 受講者数:45人 受講料:無料 会場:講座室</p>	203,340
2	文学講座 若い人たちのための俳句教室	<p>俳人として10代から第一線で活躍する大高翔さんによる若者向けの俳句講座。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4、5月は中止し、6月は開催、7、8月は通信添削で開催した。</p> <p>日時:令和2年6月～8月(全3回) 受講者数:15人 受講料:無料</p>	157,539

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	経費(円)
3	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会に即したテーマと反戦にちなんだ朗読会を行う予定であったが、5月の「瀬戸内寂聴著『いのち』を読む」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。7月は「反戦」。講座生がよく内容を読み込み、伝わる朗読ができた。</p> <p>日時:令和2年7月4日(土) 入場者数:33人 受講料:無料 会場:講座室</p>	840
4	文学講座 短歌を作ろう	<p>現代短歌の秀歌を鑑賞しつつ実作を基礎から学ぶ講座。「自分を詠む」「家族・友人を詠む」「社会・時代を詠む」「遙かな世界を詠む」「故里を詠む」など、各回のテーマについて理解を深めながら、経験者も初心者も共に実作を試み、短歌を作る楽しさを味わった。</p> <p>日時:令和2年9月～令和3年2月(全6回) 受講者数:168人 受講料:無料 会場:講座室</p>	125,012
5	第19回言の葉朗読会	<p>詩、童話、小説と幅広い題材を、21人の出演者が個性豊かに朗読した。観客からは、2時間がとても短く感じられたとの感想が聞かれた。ソーシャルディスタンスを取るため、会場を講座室からギャラリーに変更して開催した。</p> <p>日時:令和2年9月19日(土) 受講者数:53人 受講料:無料 会場:ギャラリー</p>	840
6	秋の文学講演会 I	<p>芥川賞受賞より7年を経て発表された『TIMELESS』が生まれた背景には、講師・朝吹真理子氏が何気ない日常の風景に見ている「時の流れ」がある。つかみどころのない感覚的な事柄を、非常に分かりやすい的確な表現で語り、『TIMELESS』の作品理解のみならず、作家の知性と魅力ある人間性を知る良い機会となった。</p> <p>日時:令和2年10月25日(日) 受講者数:58人 受講料:無料 会場:ギャラリー</p>	498,180
	秋の文学講演会 II	<p>劇団「東京キッドブラザース」で演劇人として活躍する傍ら、『フルハウス』『ゴールドラッシュ』『家族シネマ』等の作品で次々と高名な文学賞を受賞した作家の柳美里は、2011年の東日本大震災の直後、福島県南相馬市に移住した。震災と原発のこと、地元の人々との関わりについて、南相馬での生活が自身の創作にどのような影響をもたらしているかなど、1時間にわたって話した。柳にとって文学とは何かを問う会場からの質問に対し「根源に文学がある。文学とは生きることそのもの」と答えていた。</p> <p>日時:令和2年11月8日(日) 受講者数:76人 受講料:無料 会場:ギャラリー</p>	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	経費(円)
7	文学講座 古典を読む「奈良・平安時代の恋の歌」	『万葉集』や『古今和歌集』、『源氏物語』、『伊勢物語』などの中から、奈良・平安時代に詠まれた恋の歌を紹介した。 日時:令和2年11月～令和3年3月(全4回) 受講者数:78人 受講料:無料 会場:講座室	91,890
8	書道講座 書道創作講座 篆書・金文	書体別の創作講座。これまで「楷書」「行書」「草書」「篆書」を開催してきたが、受講者に特に好評だった「篆書」を再度開催した。篆書体のうち、本年度の「小篆」より古い時代の「金文」を題材とした。 日時:令和2年7月～8月(全3回) 受講者数:32人 受講料:無料 会場:実習室	51,060
9	書道講座 篆刻 一字印を作ろう	12ミリ角の大きさの一字印を作成。初回は講師による篆刻の工程や用具の説明後、刻したい一字を篆書で練習。その後、印面をサンドペーパーで整え、文字を反転させて書き入れた。最終回は、印刀を使って刻していった。受講生は試し押しした印影を見ながら、納得いくまで刻した。講師の的確なアドバイスや補刀を受け、仕上がった印を印箋に押し、落款を入れて完成。仕上がった印を見て受講生は一樣に感激していた。受講生の作品は10月2日から25日まで1階ロビーに展示した。 日時:令和2年9月12日、26日(全2回) 受講者数:19人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室	40,230
10	書道講座 インテリアの書を創作しよう	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、令和3年度に繰り越した。 日時:— 受講者数:— 受講料:— 会場:—	0
11	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	毎年恒例の小学生対象の講座。1年生から5年生まで12人が、伝統文化の「書き初め」にちなんで特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って大字作品を制作した。はじめに書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、その後約1時間で、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がり、作品は1月14日から31日まで1階ロビーに展示した。 日時:令和3年1月11日(日) 受講者数:12人 受講料:無料 会場:実習室、講座室	23,236

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	経費(円)
12	書道講座 書の鑑賞 読まずに楽しむ書の世界	東京国立博物館の学芸部などで長年勤務し、現在は九州国立博物館の館長である島谷弘幸氏による書道鑑賞講座。書は「読めない」ことをハードルに感じ、「どう見たら良いか分からない」と思い込んでいる人が多いが、書も絵や音楽と同様に、理屈ぬきで魅力を感じられるものであると説明。書の魅力や特質を作品ごとに解説しながら、書は読めると更に楽しいが、読めなくても十分に楽しめることを説いた。なお、本講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師と会場をつないだオンラインで開催した。 日時:令和3年2月21日(日) 受講者数:85人 受講料:無料 会場:ギャラリー	105,040
13	書道講座 名前を美しく書こう	小筆による名前の美しい書き方を学ぶ実技講座。はじめに、小筆で名前を書く機会はさまざまあるが、共通して大切なことは適度な大きさと配置であると説明。続けて、同じ筆遣いでも字の中の空白をうまく生かすことで、文字は明るく元気に見えると言った。実技では、講師が添削をしながら、受講生にそれぞれの良い点と課題を説明。的確で丁寧なアドバイスに、受講生は熱心に耳を傾けた。 日時:令和3年3月6日、13日(全2回) 受講者数:27人 受講料:無料 会場:実習室	45,630
14	ことのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的に開催。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性を生み出している。第1回の5月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 日時:令和2年7月～令和3年3月(全5回) 入場者数:392人 入場料:無料 会場:ロビー	1,268,723
	小計		2,611,560

(4) 展示事業【10,280千円】

	事業名	概要	経費(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する記念室。京都・嵯峨野の寂庵を模した書齋や、心とませる日本庭園を設置している。「寂聴と石牟礼道子」題して、年1回の展示替えも行った。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	-
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の文学企画展として「佐野まもるの遍路俳句」、「生誕100年 柏原千恵子ー寂しさをまとった歌人」を開催した。 期間:通年 会場:文学常設展示室	-
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して見学できるようにしている。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示を行った。 期間:通年 会場:収蔵展示室	-
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家を中心に豊かな書の世界が広がる展示室。年3回の展示替えを行い、収蔵している豊富な作品を幅広く紹介している。本年度は「春・夏の書道収蔵品展」「梧竹さんの“へんてこりん”な書」「秋・冬の書道収蔵品展」を開催した。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	-
5	文学特別展 いのちー90代の寂聴文学 (特別展示事業)	90代に執筆した作品や著書を展示し、老いてもなお旺盛な執筆意欲を示す寂聴の生きる姿勢を紹介した。文学にとどまらず、平和のために行動し、若者と交流する姿なども資料や写真で紹介。「わたしの好きな寂聴作品」感想文コンクールを実施し、優秀作品5点を選んで、入賞作品集を作成した。 会期:令和2年4月9日(木)～令和2年5月24日(日) 25日間(新型コロナウイルス感染拡大防止のため4/22～5/8は臨時休館) 入場者数:97人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	1,212,135

(4) 展示事業

	事業名	概要	経費(円)
6	書道特別展 真っすぐな書家 小坂奇石の書と生涯 (特別展示事業)	海部郡美波町生まれで、昭和を代表する書家として知られる小坂奇石(1901～91年)。今回は、当館所蔵の代表作など33点とともに、その人となりや書にまつわる数々のエピソードを紹介し、真っすぐに生きた奇石の書と生涯をたどった。また、展示作品とエピソードを収録した図録(A4版)を観覧者に配付したほか、奇石の生涯を描いた映像「書家 小坂奇石」を上映した。 会期:令和2年6月19日(金)～8月5日(日) 41日間 入場者数:711人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー	813,286
7	文学特別展 詩人・吉野弘の世界 (特別展示事業)	日常をみつめ、生きることの喜びや悲しみを磨き抜かれた言葉で表現した吉野弘(1926～2014年)は、戦後を代表する詩人の一人であり、温かでウィットに富んだ詩は多くの人々の共感を呼んだ。本展では、今なお愛され続ける吉野の代表作や人生の歩みを紹介し、自筆原稿や写真、愛用品など約120点を展示した。 会期:令和2年8月9日(日)～9月27日(日) 43日間 入場者数:852人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,041,725
8	文学特別展 明治の翻訳家 井上勤の西洋奇談 (特別展示事業)	嘉永3年に徳島で生まれ、日本の翻訳黎明期にいち早くジュール・ヴェルヌ「八十日間世界一周」「海底二万里」、シェイクスピア「ヴェニスの人」、「アラビアン・ナイト」など今日でも広く愛される名作の数々を訳して一般に広めた井上勤(～昭和3年)の業績と生涯を紹介。明治という時代を背景とした井上作品の意義と面白さに迫った。 会期:令和2年12月12日(土)～ 令和3年2月11日(木・祝) 47日間 入場者数:295人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,444,654
9	書道特別展 古武士の風格 富永眉峰の書と俳句 (特別展示事業)	戦後の草創期から県書壇を牽引した書家、富永眉峰の書と俳句を展示。炭山南木に師事し、初代県書道協会会長や県展審査員を長年務めるなど書道の普及に尽力し、昭和28年48歳の時には県内在住書家として初めて日展入選を果たした。また航標俳句会に所属し、句集を3冊、自筆句集を6冊出すなど精力的に活動。眉峰が情熱を惜しみなく注いだ書と俳句双方を展示した。県内各地に現在も残る眉峰の書による看板や門標などもパネルで紹介し、身近に感じてもらえるよう工夫した。 会期:令和3年2月16日(火)～3月21日(日) 30日間 入場者数:612人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,823,885

(4) 展示事業

	事業名	概要	経費(円)
10	文学企画展 佐野まもるの遍路俳句 (企画展示事業)	徳島市生まれの俳人・佐野まもる(1899～1984)は、水原秋桜子に師事し、「馬酔木」で活躍したほか、徳島で俳誌「海郷」を主宰し、県内屈指の俳人として活躍した。特に遍路を詠んだ俳句を得意とし、遍路俳句を集大成した『天明抄』は、他の俳人や歌人、詩人からも高い評価を得た。その遍路俳句を中心に、まもるの代表作や人となり、直筆資料や掲載雑誌などとともに紹介した。 会期:令和2年6月16日(火)～8月30日(日) 66日間 入場者数:1,369人 観覧料:100円～310円 会場:文学常設展示室	41,756
11	企画展 梧竹さんの“へんてこりん”な書 (企画展示事業)	“明治の三筆”の1人に挙げられる中林梧竹(1827～1913)は、“梧竹さん”の愛称で親しまれ、その独創的な作品は、没後100年以上たった今でも新しさを感じさせる。今回は「梧竹さんの“へんてこりん”な書」と題し、ユニークな書画作品や、筆や着物、写真など24点を展示。“へんてこりん”に秘められた、梧竹さんの書の奥深さが感じられるように工夫した。等身大の梧竹さんパネルのほか、梧竹さんの“へんてこりん”なエピソードも併せて紹介し、子どもから大人まで楽しめる展示とした。 会期:令和2年6月16日(火)～9月27日(日) 90日間 入場者数:1,755人 観覧料:100円～310円 会場:書道美術常設展示室	139,831
12	書道企画展 館蔵の名品 (企画展示事業)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期した特別展「文字の美－柳宗悦がみつめたもの」の代替展。 開館以来の寄贈品・収集品の中から、書の名品32点を選んで展示した(うち12点は初公開)。展示機会の少ない横10メートルと12メートルの超大作や、勝海舟ら幕末から明治に活躍した23人の書状をまとめた巻物を10年ぶりに展示した。また、中国の名筆による名品も7年ぶりに展示するなど、多彩な書の名品を一堂に公開した。 会期:令和2年10月2日(金)～11月15日(日) 39日間 入場者数:759人 観覧料:100円～310円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	868,618

(4) 展示事業

	事業名	概要	経費(円)
13	文学企画展 生誕100年 柏原千恵子 一寂しさをまとった歌人 (企画展示事業)	徳島市出身の歌人・柏原千恵子は、歌誌「七曜」を創刊、徳島新聞の「徳島歌壇」選者を長く務めるなど、戦後の徳島を代表する歌人として活躍した。本展では、生誕100年を迎えた柏原千恵子の生涯を、深く静かなまなざしで詠んだ折々の歌とともに紹介した。また、自筆原稿や愛用していた着物なども展示した。 会期:令和2年11月7日(土)～令和3年2月7日(日) 74日間 入場者数:672人 観覧料:100円～310円 会場:文学常設展示室	139,038
14	書道企画展 第5回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	小学4年生から高校生までを対象に、応募のあった675人の中から213人を予選で選考。予選通過者と招待者(グランプリ1回受賞者または準グランプリ2回受賞者)16人を対象に10月31日、11月1日に本選を実施した。小中学生は各学年、高校生は漢字・漢字仮名交じり・仮名の各部門でグランプリ、準グランプリ、金賞、銀賞、銅賞を決定し、11月28日から12月9日まで本選作品すべてを展示した。また準グランプリ受賞者以上を対象に12月6日に表彰式を実施した。 会期:令和2年11月28日(土)～12月9日(水) 10日間 入場者数:635人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	744,190
15	書道企画展 「今年の一字」展2020 (企画展示事業)	年末恒例の「今年の一字」展。この一年を振り返り、世相や印象に残ったことを表す漢字一字を筆でハガキに書いてもらった。6歳から84歳まで544点の応募があった。今年最も多かったのは「新」。2位は「変」。続いて「楽」、「友」、5位は「挑」、「笑」が同数であった。今回応募のあった漢字と選んだ理由からは、新型コロナウイルス感染拡大の影響が多くみられた。すべての応募作品を展示した。 会期:令和2年12月12日(土)～27日(日) 14日間 入場者数:168人 観覧料:無料 会場:1階ロビー	10,446
	小計		10,279,564
	合計		14,112,883